令和６年度～第３号（第１４号）～

Table Tennis Specialty Department
Saitama Junior High School Physical Culture Association

埼玉県中体連卓球専門部マガジン

部活動で強くなる

埼玉県中体連卓球専門部強化部

【はじめに】
今年度の埼玉県中体連卓球専門部マガジンも３号目となりました。今回は専門部の先生方が今までで、**「顧問していての失敗談や反省談」**をまとめ、マガジンに執筆していただきました。読者のみなさんも同じような失敗があるのではないでしょうか。色々な意味で、ぜひ参考にしていただけるとありがたいです。それでは今号もお楽しみください。

執筆者の先生方

1 小井戸健太　加須市立騎西中学校
2 木内　結菜　春日部市立春日部中学校
3 倉田　和宏　越谷市立西中学校
4 石橋　岬　春日部市立大沼中学校
5 大澤　祐太　川越市立芳野中学校
6 廣瀬　俊哉　さいたま市立本太中学校
7 小谷　周士　深谷市立南中学校
8 小西　大気　元伊奈町立小針中学校
9 石井　浩恭　元富士見市立勝瀬中学校

①「部活環境の大切さが身に染みる…」みなさんの練習環境はどうですか？

【環境面の失敗談①】当時、卓球部の活動場所は**「武道場」**で、剣道部と卓球部で兼用していたのもあって、1日おきの使用でした。そんな中、毎日生徒達に卓球台で打たせたかった私としては、屋外にブルーシートを敷いて、そこに卓球台を運び、青空卓球を行っておりました。この青空卓球では、生徒たちが「風が強いのでボールが揺れます」とか、「風で変な曲がり方をするのでラケットに当たらない」等の不平・不満ばかりを口にしていました。しかし私は、「大事なのは、風を読んで動くボールの軌道を捉えることこそが、卓球の試合の流れや状況を読む力の向上につながるはずだ」と言って、生徒に無理やりに自分の考えを押し付けて練習をさせておりました。当然、卓球は室内で行うものであって、屋外で風を読みながら練習することは、まったくと言っていいほど意味をなさないものでありました。みなさんも室内で練習するようにしましょう。

【環境面の失敗談②】みなさんの学校には卓球部の**「部室」**がありますか？
私としては部室は、荷物を置いておくための場所としては必要であったり、着替れられる場所としても、やはり必要であるとは思います。しかし、それらを差し引いても、やはり結論として**「部室は必要ない」**と思っております。
当時、卓球部専用の部室がありました。その部室は活動場所から少し離れた場所にあることもあって、顧問の目が部室には、あまり行き届かないものとなっていました。これが原因で生徒が練習に来ていないと思っていたら、部室で部活動終了時刻まで複数同士でずっとふざけ合いをしていて練習に来なかったということが何回もありました。しかもこのことは、代が変わっても、いくら注意しても毎年、毎回のように繰りかえされていました。部室はまさにふざける生徒の巣窟と化していました。このことから私としては部室は必要ありません。
みなさん、部室は必要ですか？

【環境面の失敗談③】部員が8人で卓球台が1台しかないとします。みなさんはこの1台に何人の生徒をいれますか？
当時の私は、2人ずつを交代で入れておりました。ミス交代なのですが、これでは6人は打たずに自分の番がまわってくるまでずっと待っている状況です。これが失敗でした。卓球はとにかく打たないとうまくなりません。2人だけが打つことより、どうにかして8人全員が打てるようにしてあげることが重要でした。今ではこの問題はクリアできていて、フォアコース、バックコースにそれぞれ2人ずつ入れてダブルス風に練習しております。これなら8人全員が毎回打てるので全員の成長が期待できるはずです。みなさんならどうしますか？

加須市立騎西中学校顧問
小井戸　健太

② 顧問としての２つの失敗談…

卓球は奥が深いので、顧問に必要な知識がたくさんあります

【自分の知識不足を痛感した経験】

何年か違う部活をもち、ようやく念願の卓球部の顧問になれたとき、当時の生徒から「先生、卓球って回転がものをいうスポーツなんです。分かっていますか？」と言われたことを今でも覚えています。私自身、卓球は好きなのに、自分の知識不足のせいでたくさん失敗も後悔もしてきました。練習試合の出来事ですが、1セット終えて生徒が悲惨な負け方をして報告にきたとき、相手のラバーを確認したところ聞いたことのないラバーでした。私は驚いて、生徒が2セット目を試合している間、ネットでラバーを調べてしまいました。中国製のラバーでした。この経験は顧問の責任を感じて怖いなと思った経験のひとつです。当たり前のことではありますが、生徒を勝たせるためにも、自分の卓球の知識は必要だなと強く思いました。戦型ひとつでも知っておかなくてはいけないことはたくさんあります。ラバーやサーブなど、卓球は本当に奥が深く、日々勉強だなと感じています。

【ユニフォームオーダー注文は出来るのに1か月半以上かかります】

他に失敗談で思いついたのが、ユニフォームの注文です。1カ月くらいでできるだろうと思ったら、ほぼ2カ月かかりました。オーダーは考えるのにも時間がかかるので注文自体が遅くなってしまい、夏休みの大会に間に合わなかったことがあります。本当に反省です…。

春日部市立春日部中学校顧問
木内　結菜

③ 部活運営と生徒へのアプローチについて　～入部時に部活嫌いはいない～

～失敗談①～

私は卓球未経験者の顧問です。私の卓球のイメージは、世界卓球などで活躍する攻撃主体の選手でした。よくわからない中で、あまり考えもせずになんとなく戦型を決め（ほぼ裏裏のみ）、なんとなく練習メニューを組んでいました。そんな感じで始めた部活動なので、上達もほとんどせず、活動時間だけ無駄に長い。結果として、部員の大部分はやる気を失っていきました。**私が少し考えて、努力すればあの時の生徒たちも今のように少しは卓球に夢中になれた**のではないかと後悔しています。

～失敗談②～

卓球部顧問になって2年目のことです。昨年度の反省を生かして、練習メニューを多くの先生から教えていただき、改善しました。私もやる気を出して、とりあえずがむしゃらに練習試合も組みました。（夏休み20回）そんなこともあり、チームは強くなっていきました。しかし、ここでまた大きなトラブルが…。部活動についていけない生徒が出てきました。目標設定が曖昧だったのです。モチベーションに大きな差があると、チーム内も不仲になっていき、結果として生徒指導が増えました。**入部時や代替わりに生徒たちに目標を伝えて、立てさせればよかったと後悔しています。**

私がこれらの失敗談から学んだことは、**部活動は生徒が主体であり、教師としてサポートすることが大切**だということです。時には先導したり、高い目標を提示することも大切です。しかし、生徒あっての活動なので、**生徒一人ひとりに寄り添いながら、生徒自ら卓球がしたい。部活動だけじゃなく、自分たちで練習したい。と思えるような活動にしていき、卓球好きを増やしていきたいと思います。**

越谷市立西中学校顧問
倉田　和宏

④ 部活運営と生徒へのアプローチについて　～入部時に部活嫌いはいない～

【環境面の失敗談①】

当時、部員が60名以上いるのに、卓球台が12台しかない代がありました。1台に4人が入っても台が足らず、大会前は上級生が優先となってしまい、1年生は壁打ちをすることが多くありました。

代替わりした後のことを考えると、卓球台を使用した練習時間を下級生にも確保してあげたかったという思いがすごく残っています。

【環境面の失敗談②】

普段は体育館で卓球台を用意して練習することが多いですが、空き教室の1室に卓球台を用意し、使用することがあります。体育館は上級生が優先的に使用することが多いので、部員数が多い時には下級生の練習台として利用することができ便利な反面、顧問の目が行き届かないと、効率の良い練習とはならないこともありました。専門外の部活を受け持つ教員が増えたり、働き方改革が話題となり、顧問数も減少している現在、なかなか上手くいかないと感じることも多いです。

越谷市立西中学校顧問
石橋　岬

⑤ 卓球経験者だからこその失敗談

①　自分がやってきたことを生徒にやらせようとした

②　自分が中学校の卓球部顧問になって 1 番の失敗が、自分が行っていた練習内容を生徒にやらせようとしたことです。私は中学生では平日は3～4時間程度の練習を毎日行い、休日は試合や練習試合も含めて平日以上に練習をする環境で育ちました。そのため、基礎を固める練習が大半だった私は、ラリー練習と下回転サーブ練習を行わせていました。しかし、習得までに時間がかかり、一向に次のステップに進めませんでした。また、他校のサーブに対応できず、勝ちにくいことがわかりました。中学校の部活しか練習がないみなさんは、効率的な練習を考えましょう。

③　シェイク裏裏至上主義は通用しない

④　「卓球を本気でやるなら両面裏裏だろ」という考えが自分にはあり、粒高や表ソフトを育成せずに裏裏のみを育成していました。しかしながら、他校を見ると粒高だらけ。粒高の性質を知らない生徒は訳も分からず敗北することが続きました。粒高の性質を口頭で説明しても、やはり練習で受けていないボールはなかなか返せるものではありませんでした。中学のみの練習の場合には、裏裏にこだわらず、いろいろな戦型を育成して知らないボールをなくしていきましょう。

③　顧問のやる気＞生徒のやる気より顧問のやる気≦生徒のやる気

顧問を持ち始めたころ、私は卓球を経験していたこともあり、卓球に対する熱量はとても大きく、自分の指導についてくれば必ず強くなれると考えて指導をしていました。しかしながら、生徒の気持ちを無視した指導では生徒はついてきませんでした。卓球部に入部する中学生は上達したくて入ってくる生徒ばかりではなかったのです。何事もやる気や向上心がなければいくら教えたところで上達しません。自分のやる気よりも生徒のやる気を UP させること、生徒の気持ちを確認しながら指導していくことが大切だと気づかされました。

川越市立芳野中学校顧問
大澤　裕太

⑥ メリークリスマス…

私個人としてはどんな選手にも「中学校3年間、卓球部で良かった」と感じて欲しいという思いがある。そのため、普段はもちろん、練習試合や試合等で遠征をしたときなど、いろんな場面で卓球の技術に関係のない、「卓球以外のお楽しみ」があるといいなと思っている。(もちろんこんな思いを持っていることを子どもに語ることはありませんが)

昔々のある年のクリスマスイブのこと。冬カデットの帰り道。ときめく話題の1つもない、卓球部の男だけで帰るイブの夜。クリスマスといえばクリスマスケーキだと思い、私はホールのケーキとろうそく、ライターを買い、ケーキ屋近くの公園でささやかなクリスマス会をしました。男たちで集まり、顔を寄せ合いろうそくの火を消しました。そして、みんなで1つのホールケーキを食べました。そして、食べ終わった後、一人の生徒がつぶやいたのです。

「…なんだか寒気がする。」

…インフルエンザでした。
年末はみんなでインフルエンザになり、年始の大会はみんな病み上がりで臨みました。結果は残念なものでした…。

それ以降、うちのチームのクリスマスは、卓球をするだけの日になっています。

さいたま市立本太中学校顧問
廣瀬　俊哉

⑦ 失敗だらけ。わからないことだらけ。

私の失敗談、反省談ですが、数えきれないほどあります。いろいろな競技の部活動を顧問していきましたが、毎年最後の大会で敗退し最後のミーティングをしているときに、引退を迎えた3年生の姿を見ると、もっと何かしてあげることはなかったか反省します。

卓球部でいえば、初めて女子の卓球部を顧問していた頃に後悔したことを強く覚えています。チームは地区では、そこそこ強いといわれるようなチームで、部員は、仲が良くトラブルの無い落ち着いたチームでした。私自身それまでサッカー部の顧問をしていたので、卓球の競技性についてよくわからず、生徒に前の顧問の先生は何を指示していたか聞いて「じゃあそれで。」を繰り返し、放課後の練習や休日の練習を生徒に任せきりにしていました。彼女らなりに一生懸命に練習に取り組んでいたと思います。練習試合でも勝つことが多く、大会では県大会出場を目標にしていました。

しかし、大会本番では、県大会出場目標を達成することはとはできませんでした。予選で敗退し泣き崩れる体育館での彼女たちの姿は今でも忘れません。学校に戻り最後のミーティングをしているときに、彼女たちが一生懸命頑張っている姿を見ていなかったので、彼女たちに何を言っていいいのかわかりませんでした。

そのことが自分自身、顧問としてとても悔しかったです。もっと生徒に関わっておけばよかったと後悔しました。卓球については、わからないけど、もっと同じ時間を過ごしておけばよかったと反省しました。現在は、その思いをしないように心がけて顧問をしています。

深谷市立南中学校顧問
小谷　周士

⑧ 卓球未経験顧問の先生あるある！？技術指導での失敗談！

【教本のページの順で教えていった結果…】

卓球専門部マガジン第7号でも書かせていただいたのですが、卓球未経験の顧問の先生の中には、手始めに本屋で卓球の指導書を購入し、そのページの順序通りに見よう見まねで指導をしていく先生もいらっしゃるのではないでしょうか。私もそのうちの一人です。もちろん、そのような指導方法も間違いではないと思います。しかし、“初心者から始めた中学生が試合で勝つ”ことに必要な技術の優先順位を考えることもそれ以上に大切なのではないかと思っています。私が購入したある書籍には、早い段階で“フリック”や“チキータ”といった台上技術が紹介されていました。ページの順序通りに教えていた私は、これらの技術を練習メニューに取り入れてみました。しかし、実際の試合でその練習の成果が発揮されることはあまりありませんでした。もちろんできるに越したことはないですが、他にも優先するべきことがあったのではないか…と当時の自分を振り返ると反省することが多々あります。

卓球未経験の指導者が知識と技能を習得する手段として、中学校の部活動に重きおかれた指導法について書かれたものを読んでみたり、講習会に参加してみたりすることが私のおすすめです。卓球専門部マガジンはもちろんのこと、”毎年9月に開催される卓球指導技術講習会”や”冬の卓球研究協議会”といった行事が未経験の私にとって、とても勉強になりました。わからない子の気持ちがわかるのは卓球未経験の指導者の強みです。たくさん失敗を経験しながら卓球が好きな子どもたちを育てていきましょう！

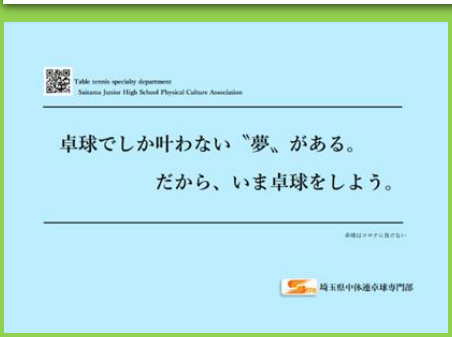
元伊奈町立小針中学校顧問
小西　大気

⑨ 失敗や反省をその後に活かせるように

今回のテーマは「卓球部顧問をしていての失敗談・反省談」ということで、この何十年の間にいろいろとあるのでしょうが、自分ではなかなか気付くことが難しかったり、思い出せないもので、具体的にこれといったことが思い浮かびません。顧問として、生徒の思いの実現や目標を達成させるために、さまざまな活動を通して指導にあたりますが、思いの実現や、目標の達成ができなかった場合には、それまでの過程での指導などが失敗であったり、反省しなければならない内容があるのでしょう。

今まで多くが、夏の学校総合体育大会団体ベスト4以上を目標に取り組んできました。達成できなかった際には、そこまでの練習への取り組みや練習内容、練習試合などの計画、対戦相手に勝つための対策、個々の技能レベルの向上、個々の性格や行動面の把握、メンバーの起用、団体としての意識レベルの向上、メンタル的な面など、さまざまな点から整理し、どんなことが失敗だったのか、何を反省すべきなのかをよく考えて、その後に活かせるようにしてきたつもりです。生徒のやる気がなかったり、思い通りに行かないことやうまくいかないことも多くありますが、生徒の思いの実現や目標を達成させるために、失敗や反省を活かしながら今後も取り組んでいきたいと思います。

元富士見市立勝瀬中学校顧問
石井　浩恭



マガジン第14号はいかがでしたでしょうか？誰しも失敗談はありますよね…私も今でも失敗や悩みだらけです…そんな悩んでいる先生方に届いていることを祈っています。今回も執筆していただいた先生方、大変お忙しい中、時間を割いていただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます！次号もお楽しみに！